

令和2年度 新生活様式における

生活科・総合的な学習の時間



札幌市生活科・総合的な学習教育連盟

令和2年6月

【生活科・総合的な学習で大切にしたいこと】

- 子どもが対象（人・もの・こと）と関わる大切（繰り返しの関わり・深い関わり）
- 子どもが対象に関わることで、対象から受けることを生かして、思い願いを膨らませる（主体性）
- 体験を通して、思考をめぐらせること。（体験活動と表現活動）

【新しい生活様式における学習】

○換気の悪い密閉空間

○多くの人が密集

○近距離での会話や発声・密接

3つの密を避ける

生活科	総合的な学習の時間
<ul style="list-style-type: none">◆まちたんけんは、当面の間、お店や公共施設内部の見学は避け、建物の外からの見学にとどめ、写真やビデオを活用する。◆児童と地域の方との直接交流はさけ、手紙、電話やビデオを活用する。◆遊びの活動において、子ども同士の接触を避ける工夫。◆体験活動のルールを子どもと共に作成する。 手をつなぐのはやめよう。 おにごっこでタッチするのはやめよう。	<ul style="list-style-type: none">◆地域の方との直接交流は避ける。この状況下での課題探究を進める。 →例えばコロナ対策の状況下で、地域のお年寄りを元気づけるにはどうしたらいいか？◆校内の「人・もの」を活用する。◆ICT機器を活用した探究。 メールやFAXを活用したインタビュー活動。

子どもの発想を生かす！

・新しい生活様式（3密を避ける）を子ども自身が意識し、普段の生活にも生かしていくためには、生活科や総合的な学習における体験活動において、コロナ対策の状況下を踏まえた、ルールや活動の仕方を子ども自身が考え、学習に子どもの発想を生かしていくことが大切です。

例えば、生活科の「野原で遊ぼう」の活動では、人が集まる遊び（おにごっこ・大根抜き）は避け、間隔を開けて遊べるルールや遊び（かくれんぼ・だるまさん）を考える。

例えば、総合的な学習の時間での、地域の老人との交流について、コロナの状況下を踏まえ、直接会うことを避け、どんな方法で交流すればいいか？ビデオメッセージやお手紙など、子どもの発想を引き出す。

新生活様式における生活科の学習

■その1

不特定多数の人が集まる場所（商店街、人の出入りが多い公共施設）の探検活動は、当面の間は、中には入らず、建物の外からの見学にする。また、内部の写真やビデオを活用する。

*今後の建物内部見学に関しては、全市の感染状況によって柔軟に対応する。

■その2

校内人材（校長・教頭・栄養教諭・養護教諭・用務員・事務職員）を積極的に活用する。外部の人との直接的な関わりはできるだけ避ける。（特に高齢者）

交流する際は、電話・FAX・E-mailなどを活用する。

■その3

生き物単元や栽培単元は、人との接触が少ないので、通常通りに取り組む。観察時は、間隔をあける、時間をずらすなど子ども同士の密集を避けるように工夫する。

■その4

季節単元においては、春を感じる体験が欠落しているので、写真等でイメージし、来年度に五感で体験できるようにする。（2年間での学習内容網羅）

1年生1学期単元

単元名 **せいかつかが はじまるよ**

4時間

目 標	入学前に好きだったことや、やったことなどを思い出したり伝え合ったりすることを通して、小学校生活でやってみたいことを考えたり伝え合ったりすることができ、すでに知っていることや自分でできたことに気付くとともに、学校生活への期待や楽しみをもつことができる。 【内容(1)】
ポイント	先生と並んでの学校探検を通して、もっといろいろな場所が見たいとの思いをもつ。 並んで探検するときは間をあけることが大切なことを理解する。
◆あ、あれ、わくわくがいっぱい(1) ◆きょうから 1ねんせい(1) ◆がくしゅうのはじまり(1) ◆がっこうの1にち(1)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; color: red; text-align: center;">再度4月当初実施する予定だったスタートカリキュラムに取り組むことが必要</div> <div style="float: right; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 20px;"> コロナ対策 ならぶときはあいだをあげよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px; text-align: center;">【活動】先生と並んで学校を探検しよう。友達との間をあげよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px; text-align: center;">もっと、探検していろいろな場所を見たいな</div>

単元名 わくわく ときどき しょうがっこう

16時間

目 標	学校や通学路を探検する活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守ってくれている人々について考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることや一緒に生活する楽しさに気づき、楽しく安心して学校生活をしたり、安全な登下校をしたりすることができる。 【内容(1)】
ポイント	校内での活動はこれまで通り取り組み、活動を充実させる。 2年生との交流に関しては、手をつながないなど直接的な接触を避けることを確認する
◆こうていをたんけんしよう(1) ◆がっこうの なかがあるこう(2) ◆なにを かんじたかな(1) ◆じぶんたちで いて みよう(4) ◆もっと たんけんして みよう(4) ◆なにを かんじたかな(2) ◆あんぜんな せいかつ(2)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; color: red; text-align: center;">学年一斉ではなく、学級ごとに時間を分けるなど、児童の密集をさける工夫をする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px; text-align: center;">【活動例】一人一人で探検しよう</div> <div style="float: right; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 20px;"> コロナ対策 手をつながないで！ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px; text-align: center;">学校の人と交流しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・安全を守るものやそれがあるところについて確認し、どのような役割をするのか、また、安全な行動について話し合う。 ・登下校の際に、通学路の危険な箇所について振り返り、安全を守る設備や安全を守る人、安全な行動について話し合う。



単元名 きせつと なかよし はる・なつ

12時間→11時間

目 標	春や夏の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりすることを通して、春や夏の特徴や違いを見つけ、遊ぶ方法や遊びに使うものを工夫したりすることができ、自然や生活の様子の変化や自然の面白さ、不思議さに気付くとともに、それらを取り入れ、みんなと楽しみながら自分の生活や遊びを創り出そうとすることができる。 【内容(5)(6)】
--------	---

ポイント 春を感じる学習は、写真等でその頃の様子を思い出し、直接体験は次年度とする。
友達と密集する遊びや活動は避けることを理解し、工夫して活動する。

きせつと なかよし

◆はる なつ(1)

【活動例】春の草花の写真を見て思い出そう。

◆のはらで あそぼう(2)

くさばなあそび

【活動例】おにごっこやだいこんぬきのような遊びではなく、かくれんぼやだるまさんのような密集しない遊びを考える。

◆はるからなつのいきもの(2)

◆なつを かんじよう(4) → (3) *のはらで遊ぼうと季節的な変化があまりない。

◆なにを かんじたかな(1)

◆にゅうがくしてからをふりかえろう(1)

◆なつやすみをげんきに すごそう(1)

コロナ対策
人が集まらない遊
びを考えよう

単元名 きれいに さいてね わたしの はな

10時間→9時間

目 標	アサガオなどの植物を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や生長の様子に関心をもって働きかけ、植物は生命をもっていることや生長していることに気付くとともに、植物への親しみをもち、大切にしようとするところができるようにする。 【内容(7)】
--------	--

ポイント

1学期から2学期にかけて、取り組む栽培活動は、予定通り実施。水やりや観察時に密集しないよう配慮する。

*家庭に持ち帰り栽培している場合も、継続してアサガオの様子を学校で交流するなど学習に生かす。

◆たねを まこう(2)

◆まいにち みよう(1)

◆まいにち せわを しよう(2) → (1)

◆せわを つづけよう(2)

◆たねとりを しよう(2)

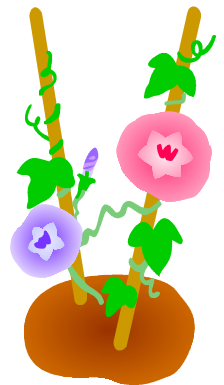
◆なにを かんじたかな(1)

◆もっと そだてたいね(資料) 【次ページ参照】

◆もしも なかがみえる むしめがねが あったら。(発展)

お世話や観察を日常生活に組み込む。

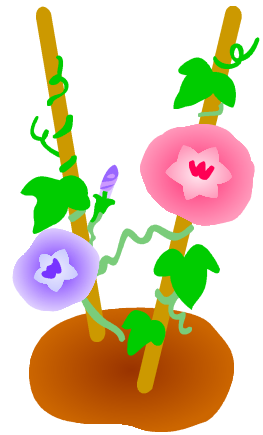
コロナ対策 観察や水やり時に密にならないよう、児童と確認する。



アサガオを意欲的に育てるためのポイント

◆ポイント1 アサガオに名前をつけ、家族のように育てる

- ・アサガオに声をかけるようになる。
- ・アサガオの生長がとても気になる。
- ・アサガオが喜ぶことを考え出そうとする。
- ・本当に自分の家族のように思えてくる。



◆ポイント2 教師が直接育て方を教えるのではなく、アサガオが子どもに教えるような展開の工夫

アサガオが主人公になるストーリーを紙芝居で示したり、適宜アサガオからの手紙がやってくるというシチュエーションにしたりする。「アサガオからの手紙」は個々のかかわりの評価、学級全体取組の評価、そして次はこうしてほしいという「支援」にもなり、1年生だからこそそのような世界を信じて夢中になる効果が高い。

◆ポイント3 観察の際の「表現」の用紙を「選択」にする

いつも「虫眼鏡」のカードではなく、お手紙タイプ、俳句タイプ、新聞記事タイプ、お医者さんの診察タイプ等、その時の自分の気分、アサガオの様子などから選択させる。このタイプが学級のメンバーのアイデアでどんどん種類が豊富になると一層表現が楽しくなっていく。

◆ポイント4 知的な気付きも大切だが情的な気付きも大切にする。(1年生らしさ)

葉っぱの大きさ、つるの長さに気付くのも大切だが、今日のアサガオさんは元気がないなあとか、のどが渴いているみたいだから水をあげたとか、そのような情的な気付きも非常に大切にしていく。

2年生1学期単元

単元名 春だ 今日から 2年生

6時間→5時間

目 自然を観察したり、1年生と交流したりする活動を通して、四季の変化や春の訪れに気付くとともに、進級によって自
 標 分たちの役割が増えたことが分かり、意欲的に2年生の生活を送ろうとする。 【内容(5)(9)】

ポイント

直接触れ合わずに新1年生に学校のことを伝える工夫をする。
 季節に関する項目は、春から夏になっている変化を取り扱う。

◆春をさがそう (3) → (2)

【活動例】春から夏になっている、学校の周りのきせつの変化を交流

◆1年生をむかえよう (3)

直接触れ合わず新1年生に学校の
 ことを伝える方法を考える。
 *手をつながない。

コロナ対策
 手をつなが
 ないで!

単元名 ときどきわくわくまちたんけんたい

9時間→8時間

目 計画を立てて、身近な地域に出かけ、様々な場所を調べたり、地域の場所や人との関わりを広げたりするとともに、地
 標 域に親しみを持ち、人々と適切に接したり、安全に気を付けて生活したりすることができる。 【内容(3)】

ポイント

たくさんの方が行き来する施設やお店には当面の間入らないで、建物の外からの見学にとどめる。
 場合によっては、内部の写真やICTなどを活用。

◆まちのことを話そう (1)

◆まちたんけんの計画を立てよう (2)

◆まちたんけんに行こう (3)

◆見つけたことを教え合おう (3) → (2)

建物の外からの見学に留め、内部のことは写真
 やビデオで補う。(当面の間)

【活動例】写真やICTでまちの様子をバーチャル探検



コロナ対策 た
 んけんの時に気
 をつけることを
 考えよう

単元名 大きくなあれ わたしの 野さい

9時間→8時間

目 身近な野菜の栽培に関心を持ち、世話の仕方を調べ継続して取り組むことで、それらの生命や成長に気付き、愛着をも
標 って育てることができるようにする。【内容（7）】

ポイント

1学期から2学期にかけて、取り組む栽培活動は、お世話や観察の一部を日常生活に組み込むことで、通常通り実施。水やりや観察時に密集しないよう配慮する。

◆野さいをそだてよう（2）

◆野さいのせわをつづけよう（3）→（2）
2学期

お世話や観察の一部を日常生活に盛り込む。

◆野さいをしゅうかくしよう（2）

◆野さいのことをまとめよう（2）

【活動例】

ミニトマト、エダマメ、キュウリ
ジャガイモ、トウモロコシ等が
育てやすい



コロナ対策 観察
や水やり時に密に
ならないよう、児
童と確認する。

単元名 生きものなかよし大作せん

1 2時間

目 探して捕まえたり、飼育したりする中で、育つ場所、変化や成長の様子が分かり、自分と同じように生命をもっている
標 ことなどに気付くとともに、生き物への親しみをもって、大切に世話を続けることができるようにする。【内容（7）】

ポイント

校地内にいる生き物を扱うことをおすすめする。（ダンゴムシ）

◆生きものをさがしに行こう（3）

◆生きものをとりに行こう（4）

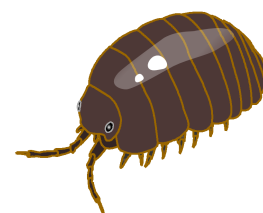
【活動例】校地内にいるダンゴムシを飼育する

◆生きものをそだてよう（2）

◆生きものをつたえよう（3）

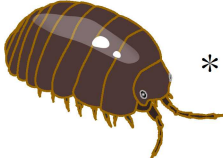
*密集して観察しないように注意する

別紙参照



「ダンゴムシはかせになろう」 略案 12時間

学習の流れ	
1	校庭でダンゴムシを探しに行こう
2	
3	日陰やしめったところにいるよ。石の下にもいるよ

4	ダンゴムシのことを調べてみよう
5	
6	本でしらべるよ ネットでしらべるよ
	すみかはどうしよう? 何を食べるのかな?
7	
	育ててみよう
8	 *可能ならマイダンゴムシ (1人1匹)
9	

10	ダンゴムシはかせになろう。
11	
12	ダンゴムシのことをまとめよう。 ずかんにしよう。クイズにしよう。かみしばいにしよう。

新生活様式における総合的な学習の時間

■ その1

まずは、校内だけで取り組める単元を優先し、外部の人との直接的な関わりは避ける。

→食育単元において、栄養教諭・養護教諭との関わりをメインとした単元を扱う。

特に、保育園児・幼稚園児、老人などとの直接交流はさけ、手紙・紙芝居・ビデオ番組などで学校紹介をしたり思いを伝えるなど工夫する。

交流する際は、電話・FAX・E-mailなどを活用する。

→相手に応じて間接的に関わる方法を子ども自身が考え実現できるような学習にしたい。

■ その2

校内人材を積極的に活用する。(校長・教頭・教諭・栄養教諭・養護教諭・用務員・事務職員)

→地域単元においても、直接地域の方と交流することを避け、長く勤務している地域に詳しい先生が人との関わりを補うことも考えられる。

■ その3

課題に対して、この状況下でできることを子ども自身の発想で取り組む。

→3密を避けることを条件に、課題解決方法を子ども自身が考えることが重要。

■ その4

単元や内容を精選する際は、学び取ってほしい内容や技能を洗い出し、学級間格差がないようにする。その際、探究のサイクル(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を確保する。

→各学校の実態に合わせた時数削減方法

○直接、人と関わる体験を見直すことによる時数の削減

○探究のサイクルを見直すことによる時数の削減

○1学期単元を削除することによる時数の削減